



## センター試験～特別考査を通して

オーストラリア研修があったこともあり、今回の特別考査はセンター試験形式の問題で国数英ともに出題しました。2年生の7月とはいえ、センター試験はたとえば数学ⅠAが高校1年生の範囲であるように、2年生までの範囲と違って間違いではありませんし、本校の進度からすると、じゅうぶん対応できるところにあります。

むしろ、高2の1月のセンターチャレンジで、積み上がっていなければ、たとえば理系では数学、英語、理科という重要科目に時間を取られる中で、1からやり直す時間は確保できないでしょうし、数学にしたところで、ⅠAⅡBが積みあがっていなければ、ⅢCに入ることも難しくなるでしょうし、ⅢCが入試の中心になる中でⅠAをきちんと積み上げる時間を確保することも難しいのです。

つまり、言い訳はできないということなのです。高校2年生の1月にある程度目安がつかなければ、受験には向かえません。何度も何度も口を酸っぱくしていつかのように、大学受験は、高校受験とは異なり膨大な範囲があり、膨大な学習時間を必要とするからです。

そう考えて来た時に、秋に進路選択がある本校ではこの試験、この夏休みが、まさにラストチャンスです。今回の試験で十分な結果が残せないとするなら、この夏休みに真剣に取り組み、目途をつける必要があります。結果が残せていないにも関わらず、夏休みも何も取り組まず、秋になって「国公立です」「これからがんばります」「やればできます」という言葉は聞きたくありません。やればできるのは当たり前。ここまでやらなかった人が、限られた時間の中で優先順位の低い科目、理系の国語社会、文系の数学、をやるはずがないのです。なぜなら、「やらなかった」原因や理由がその人には必ずあるのですから。

保護者の方には、必ずお願いしておきたいのは、成果のあがらない生徒が、もし国公立を意識するなら、今、親の希望や意思を伝え、必ずこの夏休みで動かすということです。今回の結果を見て、来年国公立選択をするかいなかは、本人に任せるならともかく、親の希望を伝えるなら、それは今行ってください。「本人次第」という建前で進みながら、科目選択の直前で「簡単に国公立をあきらめるのはどうかと思う」というような意見を言うのなら（意見や意思を伝えるのは悪いことではありません。）、それは今行ってください。

高2の夏休みは、成果の上がらなかった生徒が国公立対策を進めるラストチャンスです。生徒がやるかやらないかは当然生徒自身の問題だと思います。しかし、私立（3科目）で進んでいる生徒を秋に7科目に引き戻すというのは、無謀なことなのです。ぜひ、今回の結果をもとに、進路についての話し合いをしてみてください。

### 保護者の方へのお願い

国公立に向かわせるなら、今！夏休みや平常授業で科目をしぼっておきながら、秋にだけヤル気にさせないように。「やっていない」子を秋にヤル気にさせても、必ず挫折します。ヤル気にさせるなら今！夏に成果はいりません。姿勢だけ生まれればじゅうぶんです。それでも夏にやらないなら国立はあきらめてください。

# センターの傾向

## 国語

国語は、評論、小説、古文、漢文がそれぞれ50点満点で200点、80分で行われます。大学によっては、現代文のみであったり、漢文を除いたりすることがありますが、たいていの場合、この200点満点は変わりません。時間は現代文のみでも80分であり、試験問題が選択になったりするわけではありません。センターは時間が勝負です。したがって、まずは、初見の問題を時間をはかってとくことが重要です。また、現代文は時間がいくらあっても足りないように感じますので、解く順番としては、漢文、古文、評論、小説というのがメジャーな順序です。

### 評論

漢字が2点×5、問二～五が傍線部AからDについての選択問題、問六が本文把握の問題（二つ選択）というのが一般的な傾向です。センターにおいては、問二～五は段落要約的な問題であることが多く、問題文を読みながら解くことができます。

### 小説

最初に、語彙、意味の問題が三問出ます。本文には入れず、辞書的な意味を答えることが大事です。最近のトレンドとして、解釈に関わる問題、全体の流れから部分を聞く問題が出ています。したがって、評論と異なり全文を読んでからでないで答えられない問題がまじります。

### 古文

基本的な単語力、文法力が必須です。基本的な単語力、文法力とは、単語222を100%、動詞、形容詞、形容動詞、助動詞、助詞、敬語を完璧に理解することです。つまり、助動詞の7割は分かるというような状況では、古文はおぼつかないということです。センターで150点（75%）を目標とする場合、あてにならない現代文を頼りにするのではなく、古文を安定的に80%～90%とることが重要です。そして、それは可能なことです。ただし、国語の優先順位の低い理系に関しては2年生までに古文文法が定着していないと、3年時での挽回はかなり厳しいでしょう。

### 漢文

句法を中心に漢字の意味や読みを覚えることが要求されます。覚える数は意外に少なく、短期での挽回が可能ですが、しかし、数が少ない以上、完璧に理解していないと、全て間違える原因になります。また、短期でできるにも関わらず、2年も放っておいた人にはそれなりの理由があるわけで、その精神的な甘さをどうにかしないことにはできるようにならないでしょう。漢文は100%を狙う分野ですので、漢文をやらない人は、センター国語、ひいては国公立を捨てる方がよいでしょう。

## 数学

数学センターについて・・・配点は、昨年、一昨年のもので、来年は変更の可能性もあります。

センター数学I A。第1問から第4問まであります。

「数学I・数学A」第1問(配点20点)

「方程式と不等式」「集合と論理」などの小問が集合して問題が構成されています。

最近では「集合と論理」の問題が頻出分野となっています。命題の真偽、必要条件・十分条件の勉強はしっかりと行っておきましょう。無理数の計算問題や整数問題が多く出題されていると言えます。

「数学I・数学A」第2問(配点25点)

「2次関数」の問題が出題されています。2次関数のグラフの頂点・X軸との交点を解答させる問題や、グラフの最大値・最小値を解答させる問題が出題されます。

「数学I・数学A」第3問(配点30点)

「図形と計量」、「平面図形」に関する問題。三角関数・正弦定理・余弦定理・円の性質など

を解答させる問題が出題傾向として高いです。

センター試験「数学Ⅰ・数学A」第4問(配点25点)

「場合の数」と「確率」についての問題が出題されています。センター試験の過去問題には公式に当てはめなくとも、教え上げれば解答できる問題が出題されています。従って、センター試験本番の際、公式が思いつかなくても焦らず、順番に教え上げてみて問題に解答することをおすすめします

センター試験「数学Ⅰ・数学A」の勉強方法として、時間を計っての問題演習は欠かせません。

センター「数学Ⅰ・数学A」の限られた試験時間の中で解答していくには、どの問題から解答していけばスムーズに試験時間内に目標点数を獲得できるかを考えておくが良いです。センター試験の数学では計算力も求められますので、問題の解き方を身に付ける勉強以外にも、計算能力を高める練習をしておくのも効果的なセンター試験対策となります。

センター試験「数学Ⅱ・数学B」の問題は第1問から第6問までで構成されており、高校数学Bに該当する分野の問題(第3問:数列、第4問:ベクトル、第5問:統計とコンピュータ、第6問:数値計算とコンピュータ)に関しては選択問題となっており、大問4つの中から2問を選択して解答する試験方式となっています。

「数学Ⅱ・数学B」第1問(配点30点)

「指数・対数関数」と「三角関数」に関する問題。「相加平均・相乗平均」や「図形と方程式」などの他分野との融合問題が過去問に多く出題されています。

センター試験「数学Ⅱ・数学B」第2問(配点30点)

「微分法・積分法」分野の問題。第2問も「図形と方程式」との融合問題などが過去問の出題傾向として高くなっています。また、過去問題では年度によってバラつきはあるものの、センター数学ⅡBで最も計算量が多い大問であり、日頃の勉強から計算力を鍛えておくことが大切です。

センター試験「数学Ⅱ・数学B」第3問(選択問題)(配点20点)

「数列」の問題。センター試験数学ⅡBの過去問題では、等差数列、等比数列、漸化式に関する問題が多く出題されています。

センター試験「数学Ⅱ・数学B」第4問(選択問題)(配点20点)

「ベクトル」に関する問題。過去問題においては、ベクトル分野単体で問題が出題されることは少なく、図形に絡めた問題が出題傾向として高くなっています。解答する際には総合的な図形の見方・読み取り方が要求されるので、図形問題の勉強も重要です。また、問題を解答するのに必要な計算量が比較的多く、計算力を付ける勉強も必要だと言えます。

センター試験「数学Ⅱ・数学B」第5問(選択問題)(配点20点)

「統計とコンピュータ」の問題。問題そのものは簡単だと言えますが、問題の出題数が多いため解答するにはそれなりの時間を要すでしょう。出題される問題の難易度は高校数学ⅡBの教科書レベルなので、問題演習をしっかりとっておけば安定した得点が見込めます。

センター試験「数学Ⅱ・数学B」第6問(選択問題)(配点20点)

「数値計算とコンピュータ」分野の問題。プログラムに関する知識を解答させる問題が出題傾向として多くなっており、コンピュータのプログラムに詳しい受験生であれば難なく解答できるでしょう。センター数学ⅡBの「穴場」とも言えます。他の選択問題が解答出来なかった場合の対策として、独学する余裕がある受験生は勉強しておいても良いかもしれません。

## 英語

すでに授業を通じてプリントを配布していますので、参考にしてください。

## 他教科

### 理科

理系では2科目、文系は1科目選択がオーソドックスです。理系はそれぞれの科目でⅠ・Ⅱとわかれています。センターはⅠまでの出題、すなわち1、2年生までの範囲です。逆に、一般入試では、Ⅱが中心となってきますので、センターの範囲、授業でやった部分を3年生までに積み残さないことが大切です。また、理科は数学と同様、問題演習量がものを言う科目です。授業で聞いてわかったとおもっているだけではセンターの得点にはつながりま

せん。必ず問題演習をいれましょう。

## 地歴・公民

再三お伝えしてきた通り、2012年、君たちの学年から、時間割変更が実施され、結果として選択科目に影響が出ます。多くの国公立大学は4単位科目のみの指定になります。すなわち、日本史B・世界史B・地理・倫理政経の4科目です。文系はこの中から2科目、理系は1科目となるケースが多いでしょう。たとえば東工大のように2単位科目OKの大学もありますが、たとえば、2単位科目の現代社会を選択し、当日ふるわなかったために志望校変更をしようとしても、2単位科目可の大学にしか変更できないわけですから、4単位科目で考えるのが無難だといえます。理系は3年時にやり直す時間的な余裕はありませんから、現在の地理の授業できちんと処理しておくことが重要です。

## センターの注意

センター試験は毎年同じ問題冊子、解答用紙の形式で行われており、表紙の注意や解答用紙も公表されています。

センター試験は、受験後、翌日にデータリサーチ、データネットなどと呼ばれる自己採点→データ集計→ボーダーライン予測を行い、その結果を見て出願することになります。したがって、正しい自己採点ができるかどうか非常に重要です。今回の試験でも自己採点と実際の点数がずれていないかをチェックし、その理由を探っておきましょう。

次に、センターの解答用紙は毎年同じ形式であるということです。つまり、1番から問題数を越える番号までの連番の解答用紙であり、非常にずれやすい解答用紙だということです。したがって、解答用紙の番号のところに軽く問題の境目や終わりの位置を適宜つけておき、マークしながらずれがないか確かめることが重要です。マークの転記ミスでは泣くに泣けません。

問題冊子の綴じ方も知っておく必要があります。たとえば、数学は、「数学I」「数学IA」が同じ冊子です。つまり、大半の人が選択するIAは冊子の途中から解くということになります。模試などではIがないために、試験の時に最初から開いて、違うものをやるという失敗をする人が必ずいるのです。理科、社会（世界史AとBなど）も同様に注意が必要です。

最後に、科目選択のマークの必要があります。英語は実際には「外国語」という試験です。したがって、問題冊子は外国語しかありませんが、解答用紙は「英語」をマークすることになります。これも模試では体験しない本番だけの出来事です。もちろん、理科、地歴・公民の科目選択、数学ⅡBの選択問題など、その他にもマークする部分があります。

センター型の問題集を実施する時には、以上のような意識を持って、解答用紙にマークシートを使い、自己採点のチェックを冊子と解答用紙とするなど、本番を意識する工夫をするようにしましょう。

## センターのレベル、入試方法

「センター試験は基本、基礎」と言われますが、これは、「80%程度を取ってはじめて勝負になる試験だ」という意味であり、「誰でもすぐにできるようになるという試験」という意味ではありません。マーク試験であるために国語などでは全く勉強していなくても、50%前後がとれますので、「少しやればできるのではないか」という根拠のない勘違いが生まれやすいのです。

本校の平均は毎年全国平均よりやや上程度、つまり60%を越える程度です。しかも、センター試験はより上位の生徒ほど受験しますから、全員が受験する場合、もっと低くなるのかもしれない。つまり、誰でも80%取れる試験ではないのです。

センター試験を使う方式は次のものになります。

### ① センター利用入試

私立大学などでは、一般入試の他にセンター利用入試があります。センター試験を受け、同時に各大学に出願することによって、センターの得点はその大学に送られ、合否が判定されます。

大学によって実施する大学、しない大学があり、同じ大学でもする学部、しない学部があり、同じ学部でも科目数などは全て異なります。したがって、方式については必ず自分で調べてください。

★早慶・7科目90%以上、東大受験者の滑り止めのイメージです

★MARCH・科目数はそれぞれですが、80%以上が必要です

第一志望、つまりチャレンジで、名門私立のセンター利用の合格をとることは非常に困難です。

## ② 国公立大学

国公立では、ほぼすべての大学でセンターが課されます。大学によって、二次試験との割合や配点は異なりますが、多くの大学は5(6)教科7科目を課しています。端的にいうと、理系は国社、文系は数理を捨てられないということになります。

★千葉大・最低でも70%(二次で逆転)、本来は75%以上が必要です。

★地方大・7科目というハードルのせいか、60%程度でも逆転が可能な大学もあります。近辺では埼玉大、茨城大なども決して高くありません。

## ③ AO・指定校などの併用

AOなどで、のちにセンターを受験し、その結果で合格を出すケースも増えています。要求される得点は千葉大で70%など、一般入試に比べて低めになっているようです。指定校でもセンターを受験させる大学もありますが、合否がくつがえることはないようです。

## 中間考査・特別考査を終えて

実際のセンター試験を使った特別考査が終わりました。手ごたえはどうでしょうか。ここまでセンターについて述べてきましたが、特に理系の国語、文系の数学は2年生の1月のセンターチャレンジの得点そのまま本番の得点だと思ってもよいぐらいです。英語や理系の数学、文系の国語は重要ですから、のびるとはいえ、ある程度の得点がほしい。つまり、結局はセンター試験は2年の1月が大きな関門なのです。こうして中間試験と特別考査＝センター試験型を比べてみると、いくつかの違いがあることがわかります。以下は先生方の中間試験の分析と本番との違いのコメントです。夏の学習の参考にしてください。

### 英語

足らない分野としては、リスニング、長めの自由英作文、和訳、初見長文です。基本的な単語や文法をパターンでつめることは大前提ですが、それとともに、プラスアルファが重要です。STなども紹介しましたが、時間のある2年生のうちこそ、ふくらみのある勉強をしないと、早慶上智の英語にはたちうちできないでしょう。そうした初見の文章を一定時間で一定量、辞書を使わずに読むプロセスをいれてください。その時読解の方法、マークの方法を自分なりに身につけていきましょう。

### 数学

問題演習の不足が見えます。とにかく問題演習量を増やしていくことが大事です。文系では、日東駒専レベルで80%、国公立、難関志望者は100%とって当たり前の問題でしたが、ほぼそういう人がいません。数学を受験で使う人は、授業で要求されていることが最低限であり、平均をとっているレベルでは受験で全く使えないということを理解してください。文系慶応志望者などはしたがって、授業とは別のレベルで問題演習を進めていくことが大事です。担任に相談してください。

### 国語

古典・漢文を夏休みに取り組まないとかなり厳しい事態になります。まず、単語や文法、句法を薄い問題集でいうのでおさらいすること、そして初見の問題に取り組むことが重要です。単語や文法というアイテムを完璧に身につけた上に、それをどう使うか、というイメージ、

練習が必要です。授業で言うと、辞書を使わない予習が必須です。古漢は東大生や国語の先生でも一読してすぐわかるということはありません。アイテムの使い方が重要なのです。現代文に問題意識のある人は、とにかく問題演習量を増やすこと。自宅学習の場合、毎日1題解くぐらいでも足りません。社説ノートなどとともに言われていることを実行しましょう。

## 理科

問題演習量の不足が見られます。とにかく問題演習を増やしてください。

## 社会

文系歴史は順調です。試験では長文記述が少ないので、キーワードを意識して、長文でまとめる練習をしておきましょう。地理は、センター科目です。順調な人とそうでない人が分かれています。まず、センター地理は授業そのものだということ意識して、国立を目指すなら授業への取り組みを変えてください。そうでないなら、来年の科目選択をしないようにしてください。

# 目標達成シート～夏休みを乗り切るために

ここまで、センター試験の分析や試験の結果のコメントを掲載しました。終業式号では、夏休みの学習指針を課題とともに掲載しますが、ここではあえて、課題を載せません。なぜでしょうか？

高校2年生は、もはや受験生です。ですから、本来は宿題などは必要がないと思うからです。大事なことは、

- ① 目標を決めること。
- ② 現在地点と達成までの時間を軸にグラフを作り、中間目標を設定すること。
- ③ 中間目標を達成するために必要な「やること」を具現化すること。
- ④ 実際にやって効果を検証すること。
- ⑤ 効果がない場合、目標ややることを変えること。

というわけで、これをP D C Aサイクルと呼ぶわけです。P L A N=計画、D O=実行、C H E C K=点検、A C T I O N=行動、です。

まず、目標をしっかりと書きましょう。書かないのは、2年の夏に及んでは「逃げ」です。達成できない言い訳だとしか思えません。「ぼくは本当は国立じゃなくてもいい」「早稲田に行きたかったわけじゃない」などなど。しかし、ここまで書いてきたように、科目やレベルが異なる以上、狙わずして合格がとれる程、うちの生徒の偏差値は高くありません。高望みするなら、言葉に出すしかありません。

つづいて、やることは美しいコトバでごまかさないこと。「基本が大事」「一冊の問題集を何度もやるのがいい」「英語が最重要」「宿題は最低限」「授業の予習、復習が大事」「まずはパターン、それから応用」などなど。全部一通りの真実がありますが、もし、古典漢文が手つかずで、まず英語だけをやっているなら、もう手遅れです。夏休みはたっぷり時間があるのですから、これらの美しい言葉を言い訳に使わず、「目標達成のために何が必要か」と考えてください。わからないからこそ考えるのです。必要なものを自分で考えない限り一歩も前に進んでいません。優先順位を考えることは重要ですが、優先順位の中に入らない科目、分野があるなら大問題です。順位がついているということは、どんなに少しでも、どんなにレベルが低くてもやるということだからです。

「やればできる」という言葉は真実です。どんな人でも「やればできる」。にもかかわらず、「やらない」のはなぜか。いくら「やればできる」としても明日入試ではもう間に合わないのは自明です。私たちが口を酸っぱくして、この夏にうるさくいつているのは、「どんな人でもやればできる」のはこれがラストだからです。秋の段階では、理系で古漢をやった人ならなんとかなりませんが、

時間が進むというのはそういうことです。大学受験は、高校受験とは決定的に異なります。時間はいくらあっても足りません。そのズレが毎年悲劇を生んでいるのです。

最後に目標達成シートは原則2週間で書きなおします。気持ちを新たにするためと、チェックをするためです。やってきたことが間違っていないのか、不足の分野はないのか、そうしたチェックをかけましょう。したがって、2週間に一度は各科目模試的な演習を入れるとよいでしょう。各科目の問題集で構いませんが、イメージしにくい人は、赤本などの過去問題集やセンター問題集を使うとよいと思います。そのたびに弱点の克服、発見につとめてください。今回3枚配りますが、最低2回は書き直しましょう。提出はありません。すべて自分のためにすることですから。

なお、目標達成シートには勉強だけでなく、お手伝いや、性格、生活習慣の欄もあります。自分の性格を分析し、強い人間になるためには、他人への奉仕も欠かせません。こうしたことが、人間を強くし、またそうした評価から生活が明るくなるのです。よい生活がなければ、目標への強い意志は生まれません。そうしたことも是非チャレンジしてください。

## 課題研究など

課題研究や社説、小論文への取り組みも今回がほぼラストチャンスです。3年生になってはよほど余裕がないとこうしたものを1からやる時間はありません。課題研究やそれに必要な本を読むことはとても重要です。

受験で小論文があるものは、必ず過去問題でどんな文章を読まされるかチェックしてください。そうした問題に答えるためには、ある一定の読書量、それも、その文章に関わる新聞記事や本が必要です。非常に高度で専門的なものが読まされることに気づくでしょう。たとえば、慶応は東大受験者でさえ、法学部と文学部の両方の準備をすることは困難だと思われる。要求される知識ジャンルが異なるからです。

もし、今君がある程度自信があったとしても、それはこの学校で文句なく一番をとれるようなレベルでしょうか。人並みの自信であるとするなら、それは合格するはずがありません。ちょっと自信があるぐらいでも、それは試験場にいるある一定の基準を越えた人の最低ライン程度です。小論文で受かるということは、すごく自信がなければだめなのです。こうした準備も2年生がラストチャンスだと肝に銘じてください。

# 30期学年目標

未知の世界を切り開き、社会に貢献する、自立した「人財」へ

## 目標とする人間像

「気づき」のある人間 「聞く姿勢」を持つ人間 「学び続ける」人間

## 身につけるべき力

目標から「逆算」する力  
やるべきことを「具現化」する力  
他者を「理解」し、「理解される」力

### 夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気づき、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。